2025　年　4～6　月

探究保育　活動報告書

キッズガーデン上池袋

テーマ	実施クラス	実施保育者名
サイエンス	5　歳児　さくら　組	千葉

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由
散歩に行く機会が多いため、日常にある自然物や天気に普段から触れている環境である。そこから天気の変化や虹など現象や特徴について探究することで、色の変化や光のふしぎさを感じ、興味関心を深められるようにする。

活動スケジュール・活動内容	
4月	戸外活動で訪れる公園で自然物を観察・探究する ①植物や昆虫、公園には何がある？…ポケット図鑑を持参し、見つけたものを観察した。写真を撮ったり、持ち帰れるものは持ち帰り、更に深めていった。 ②見つけたもの、好きなものを共有する…観察して終わりではなく、オリジナル図鑑や地図として作成し、共有・伝え合った。
5月	戸外活動に影響のある天気について探究する ①雲と雨…雲にいろんな形や種類があることを知り、雨の発生原理を知った。 ②雨と雪…実験を行い、空気中に水があることを知った。別の実験にて、雪の結晶を作る実験を行った。原理について知り、変化していく様子の観察を行った。 ③虹の色…虹は何色かを想像し、実験にて虹を発生させてみた。観察し、虹の塗り絵を行った。 ④影について…いろいろな形の影を作り、どうやったら思う形の影ができるか考え試してみた。できた影を観察した。
6月	先月探究した影について、深めていく ①光と影…影が発生する原理について知った。懐中電灯を用いて、光の反射や影が発生する仕組みについて知った。 ②光の実験…光が反射する原理で、鏡を使った光のリレー遊びを通して光の反射について探究した。 ③光の反射、屈折について更に深める…コップに入れたストローが光の反射で見え方が変わる実験を行い、なぜ見え方が変わるのか考えた。 ④光と影に色はできる？…カラーセロファンと懐中電灯を用いて、光の色変化を楽しんだ。ステンドグラスの作成を行い、できあがった影や色について観察した。

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本、雲や虹の写真などを用意した。 戸外活動にて自然物を調べる際のポケット図鑑と、持ち運べるサコッシュを用意。 図鑑、地図作成用にクラフト用紙や絵の具、クレヨン、はさみ、セロテープ、製本テープなど。 実験に用いるコップ、水、フェルト、懐中電灯、鏡、ストロー、カラーセロファン、アルミホイル、ペットボトルなど。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・コップに入れた10円玉やストローの見え方が見る位置によって変わることに驚きながら観察を進めた。 ・実験では、どうなるのかと興味を持ち、じっくり観察し、油と水で見え方が異なることにも気づいた。 ・10円玉ではなく他の硬貨だったら見えるかもしれないと100円玉のグループと10円玉のグループに分かれて行いそれぞれの実験を交互に観察した。 ・ビニール袋の実験では、「絵が消えた！」と驚きの声と「こっちからは見えるよ」と、場所によって見えたり見えなかったりすることに気が付いた。	【子どもの姿・声】 ・「すごい！10円玉消えた」「大きく見えるよ」「場所によって見えるところと見えないところがあるんだね」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「横から見たりしたから見たり色々なところから見てみよう」「光の線は見えるかな？」と問いかけながら、子どもたちの気づきを促した。また、予想と結果が違った場合にも「どうしてだろう？」と考える時間を大切にし、探究する姿勢を育むようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・普段触れている硬貨が見えなくなったり大きく見えたりすることに不思議を感じていた。また、それは光が関係していることを知ると『屈折』という言葉に興味を抱いていた。 ・光の屈折をイラストで見ると赤い光が見えることに他の色の光も見てみたいと興味を持っていた。 ・以前の実験で使ったカラーセロファンを使用して色のついた光を懐中電灯で光らせてみたいと次回の取り組みへも繋がった。	活動から『不思議』と思えることが体験できたことから、その不思議を子どもたちなりにどうしたいのか、なぜを知りたいのか、さらなる不思議を体験したいのか、そのときの子どもたちの“わくわく”を見極めながら次の活動へと繋がると良いと思われる。子どもたちから色のついた光を光らせてみたいと出てきたのは、「やってみたい」という意欲へとつなげていけているので、ぜひ次回を楽しみにしている。

2025　年　7～9　月　　探究保育　活動報告書　　キッズガーデン上池袋

テーマ	実施クラス	実施保育者名
たべもの	5　歳児　さくら　組	千葉

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由
食べ物は子どもたちにとって日々の生活の中で非常に身近な存在であり、興味をもっている。普段の生活で接している水、また野菜について、またそもそもなぜ食べるのかを探究する。

活動スケジュール・活動内容	
7月	生きる上で欠かせない水について探究する ①水とは何か？…色やにおい、形などの観察。水の流れや変化(水・氷・湯気)について学んだ。 ②水の役割？…園内外で水のある場所を探し、探索マップを作った。水の使われ方や役割を考える。 ③水はどこからくる？…雨や川など自然の水について学び、水が循環(雨→川→海→雲→雨)していることを知った。 ④水がもしなかったら？…水の必要性、ないとどうなるか？、大切に使うにはどうするか？考えた。
8月	野菜そのもの、またどうやって育ち、どこを食べているのかを探究する ①野菜って何？…さまざまな野菜に触れて観察し、色・におい・感触・形など、種類による違い、特徴を知った。 ②どこにできるの？…野菜がどのように育つ(土の中・上)かを考えた。共通点、違いは何かを考えた。 ③食べているのはどこ？…根や茎、葉、花など部位があり、食べているところはどこか、他は食べられないのか探究した。 ④野菜カードを作る…調べたことや知ったことをオリジナルの野菜カードにまとめ共有しあった。
9月	食べ物がどうやって手に届き、食べた後どうなるのかを探究する ①なぜ食べる？…体のつくり、働きを知る。食べたごはんがどうなるのか、気持ちや体の変化を考えた。 ②食べ物の働き…体を動かす、体をつくるなど、食べ物の働きを知った。給食と絡め、体の中でどう働くのかを考えた。 ③どうやって手元に届く？…食べ物がどうやってできるか、手にするまでの生産過程について知った。 ④旅マップの作成…食べ物がどうやって作られ、運ばれ、手に届き、そして体内でどう働くのかのマップを作成した。

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本を用意した。 水の形について皿やコップ、袋などを用意。水の変化についてお湯や氷を用意した。 数種の野菜を用意し、細かく観察できるよう虫眼鏡を用意。 食べ物がどこから来たのか、商品パッケージなど産地が分かるものを用意。またスーパーのチラシなど、どんなものがあり、どこから来たかを想像できるようする。 野菜カードや旅マップ作成のためカードや模造紙を用意。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・前回の活動内容の振り返りから始め取り組む内容について改めて興味を持つ。 ・野菜がどうやってできるのか考える、野菜ができるまでの過程を知る。 ・土の中で育つ野菜と土の上で育つ野菜があることを知り、どこに育つ野菜であるのか探究を深めた。 ・野菜カードを使って土の中にできるのか土の上にできるのかで分けていくことで探求心を深めた。	【子どもの姿・声】 ・野菜カードを分類しながら「土が無くても育ちそうじゃない？」など考えたことを友達に共有しながらお互いの考えを伝え合っていた。 ・「野菜が育つには土と水と光が必要だよね」と今までの探究活動で知ったことを思い出しながら友達や保育者に伝える姿が見られた。 【保育者との関わり】 ・「自分で採ったことがある野菜や育てたことがある野菜はある？」と実際に見た野菜からイメージを膨らますことで考えやすくサポートを意識した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・普段食べている野菜が育つ場所についてなかなかイメージが難しそうな様子が見られた。実際に畑を見たことがある児はイメージがしやすそうだった。 ・自分の考えや気付きを言葉で友達にうまく伝えることができるようになっており、成長を感じた。 ・探究活動で知ったことを思い出しながら取り組む姿が見られ水や光というワードが出てくると嬉しそうに新しく自分で調べたことを発表する児もいた。	畑で実際に収穫体験をしたことがある児が少なく、答えを教えるではない活動のすすめ方は難しいところもあったと思われるが、水や光というこれまでの活動で取り組んだことに対しての子どもたちの反応からも、"水""光"と単体ではなく繋がっていることがこれまでの活動の成果の現れとも思う。さらに子どもたちが調べてみようとすることにもぜひ環境を整えてあげられるよう検討していく。

2025　年　10～12　月　　　探究保育　活動報告書　　　キッズガーデン上池袋

テーマ	実施クラス	実施保育者名
アート	5　歳児　さくら　組	千葉

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由
近年注目されているSTEAM教育の中でも、特に子どもたちが日常生活の中で触れる機会が少ないアートを題材とすることで、「感じる」「考える」「伝える」経験を積み重ね、自分の意見をもつことの楽しさや相手の考えを受け入れる心を育むことを狙いとする。

活動スケジュール・活動内容	
10月	日常にあふれる色について知り、感じ方を探究する ①色とは…色の原料から何色になるかを考え、絵の具や素材を用いて再現してみた。作った色から受ける印象を話し合った。 ②色の三原色と組み合わせ…三原色について知り、色水を使って混色を行った。明るさや濃さの変化を試した。 ③色の世界…色眼鏡を作成し、色眼鏡を通すことで見え方・感じ方が変わることを体感した。 ④虹色を作る…5色から、7色を作ってみた。実際に作った色で虹を描いた。
11月	錯覚、見え方の違いを体感する ①何が見える？…錯視絵を用いて、見え方の違いを楽しんだ。立体はしごを作り、見え方の違いを体感した。 ②目の錯覚…トリックアートを観察し、長さや大きさが違って見えるが実際には同じである不思議を体感した。 ③見る向きで変わる絵…左右で見え方が変わることを体感し、実際に仕掛けアートを作成してみた。 ④片目での見え方…両目と片目で見比べながら見え方の違いを体感した。
12月	名画について知り、技法を知る ①名画を知る…風景画や人物画、抽象画など、見比べて色や雰囲気、感じ方の違いを体感した。 ②技法を知る…絵画で使われていた技法を知り、実際にコラージュ作品を作ってみた。 ③表現について知る…太い線や細い線、色の重ね方などを名画から学び、実際にやってみた。作品と取り組んだ技法を共有した。

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本を用意した。 色体感のため、色画用紙、色の原料写真、色見本、食紅（色水用）、カップ、スポイト、トイレットペーパー芯、カラーセロファン、セロテープ、虹の見本絵、絵の具、パレット、筆など。 錯視絵などの見本絵。長さや大きさ比べ用の素材（短冊など）。 名画やイラストのカード。コラージュ用の素材（雑誌、英字新聞、パンフレット、写真、毛糸、モール、布の切れ端）、作成用の画用紙、ボンド、はさみ。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
トリックアートの不思議に興味を持ち、自分でも作れるのかと試行錯誤しながら活動に取り組んだ。 自分で描いた絵を錯覚を利用して表現し、完成した作品を友達と見せ合いながら「どう見えた？」と話し合った。	【子どもの姿・声】 ・「こっちから見ると違う絵に見える！」と驚く声が上がった。 ・「みんなのも見てみたい」と自分のだけでなく、友達の作品も何度も角度を変えて確認する姿が見られた。 ・「お家に持って帰ってパパとママにも見せたい」「持って帰って同じように違う絵でも作ってみたい」と保護者に見せたい気持ちや再度トリックアートを自分で作ることを楽しみたいという言葉が出てきた。 【保育者との関わり】 ・「向きを変えたらどう見えるかな」と様々な視点でみることができるように促した。 ・「見る向きで違う絵が見えるのは不思議だね」と不思議さに気が付くことができるように関わった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは視覚の不思議に興味を持ち、楽しみながら取り組んでいた。特に、完成した作品の見え方を確認し合いながらクラス全員の作品を見比べて見ることも楽しめていた。 ・実際に自分の力でトリックアートを作ることができたことに達成感や楽しさを感じていた。 ・作業工程の中で、貼る位置に難しさを感じていた場面もあったが試行錯誤しながら作り上げたことで達成感を感じてからトリックアートを楽しむことができていた。	子どもたちは、見る向きを変えることで絵の印象が変わる不思議さを、自らの作品を通して実感していた。完成した作品を友達同士で見せ合い、角度を変えながら確認する姿から、視覚の不思議を楽しみながら探究している様子がうかがえた。 保育者が視点を変えて見ることを促し、不思議さに気付けるよう関わったことで、子どもたちの発見が深まり、対話も広がっていた。 また、試行錯誤しながら作品を完成させた経験により、達成感や自信を感じ、家庭でも再度取り組みたいという意欲へとつながっていた。 今後は、子ども一人ひとりの気付きや工夫を大切にしながら、表現の幅を広げ、さらなる探究へと発展させていくことが期待される。

2026　年　1～3　月　　**探究保育　活動報告書**　　キッズガーデン上池袋

テーマ	実施クラス	実施保育者名
おかね	5　歳児　さくら　組	千葉

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由
「お金の価値」や「選択と判断」、「貯める・使う・分け合う」といった金融の基本的な概念を、遊びや実生活を通して体験的に探究することで、お金の仕組みや社会との繋がりへの理解を深める基盤を育むため。

活動スケジュール・活動内容	
1月	お金とは何か、また必要性や役割について知る ①お金とはなにか…どんな場面で使っているかを考えた。物々交換から発生する不自由さからお金の必要性、役割を体感した。 ②お金ってどんな形…模擬貨幣を用いて色や形、重さ、数字の大小などを観察した。その上でオリジナル貨幣を考え、作ってみた。 ③お金の価値…模擬貨幣を用いてお店屋さんごっこを行い、買えたもの・買えなかったもの、なにを優先したのか、物の価値などについて考えた。 ④必要なものと欲しいもの…カレーを作るために、限られたお金で何を買うべきか？また、必要なもの・欲しいけど買わないものなどグループに分かれ考えた。
2月	お金の使い方を考え、体感する ①お仕事とお金…先月の活動より、買えなかったものを買うには・お金を得るには、という視点でお仕事をして模擬通貨を得る体験をした。 ②貯めるって？…得たお金を使うか、貯めるかを考えた。貯めておくお財布を作った。 ③値段…同じような商品でも値段が違うことがあることを学び、値段の違いにある背景や、選択する理由などを考えた。 ④お仕事を考える…グループに分かれ、やってみたいお仕事を考え、必要なものを検討した。
3月	お仕事とその対価について考える ①価格を考える…先月の活動より、考えたお仕事の価格について買いやすい価格・適正な価格について検討した。 ②お仕事の準備…考えたお仕事について、商品やお店の準備、提供サービスの案内など必要なものを準備した。 ③お仕事を通じ売買体験…前回準備した商品やサービスをもとにお店屋さんを展開し、お仕事をする・対価を得るを体感した。 ④お金を分け合うことの体感…公園を例に、みんなでお金を分け合うことを学び、何があったら嬉しいか、みんなのお金の使い道を考えた。

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
模擬商品（複数）、模擬貨幣を用意した。 オリジナル貨幣作成のため、画用紙、クレヨンや色鉛筆などを用意した。お店屋さんごっこ用に買い物かご、値札、商品カード、模擬レジ。 お財布作成用の折り紙、マーカー。 お仕事計画用の模造紙、筆記用具。 公共施設イメージのため、見本写真。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、お金には限りがあることを再確認した後、「お熱が出て病院に行くとき」を例に、みんなで絶対に必要なものと無くても大丈夫なものを考えた。 ・展開では、「カレーライスを作るための買い物」という具体的な状況と架空の所持金を設定し、グループワークを行った。子どもたちは商品カードを使い、「お肉は絶対必要だけど、お菓子は我慢しよう」など、活発に話し合い、何を買うかの優先順位をつけた。 ・まとめでは、各グループが発表し、なぜその商品が必要だと判断したのか、なぜ欲しいけど買わないと決めたのか、その理由を説明した。他のグループの意見を聞くことで、「人によって必要なものや欲しいものは違う」という多様な価値観に気づく機会となった。	【子どもの姿・声】 ・「デザートにアイス買おうよ」「朝ご飯用に食パンを買おう」など実際に買い物行ったときに家庭で会話をしていることを同じように言葉にしていた。 ・「お金が余ったから他にも必要そうな物を買うのはどう？」と予算とお金について考えて発言する姿が見られた。 ・「ピアノがあったらパーティーできるね」と品物を見て想像力を膨らませていた。 ・頼まれた物以外に欲しい物を買おうとしていると「だめだよ、必要な物だけにしようよ」と反対の意見も言葉で伝えることができていた。 【保育者との関わり】 ・計算機使ってみる？とお金の計算について援助し臨機応変に計算機を用意していった。 ・お金が余るけどどうすると言葉を投げかけることで子どもたちが自分たちで話し合いをしてグループワークをできるように進めていった。 ・一人ひとり意見を受け止め、正解や不正解はなく考えて実践してみることができるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・必要な物と必要ではない物について一人ひとりじっくりと考えていた。特に自分は必要だと思っても友達から違う意見が出てきたことで自分の考え以外のことも受け入れることができ、グループワークに真剣な姿を見せていた。 ・「朝ご飯用に」「ジュースよりもお茶と牛乳のほうが栄養があるからジュースはやめようよ」と栄養や生活のことを考えて品物を決めており、普段家庭で買い物にいっているときのことを参考にしている様子も見られた。	これまでの買い物体験を踏まえ、「必要なもの」と「欲しいもの」という視点から実践的な活動となっていた。具体的な場面を設定することで、子どもたちが生活経験と結び付けながら主体的に考え、優先順位をつけて選択する姿が家庭での様子も見られていてよかった。 また、グループでの話し合いを通して、自分の考えだけでなく友達の意見にも耳を傾け、様々な考え方を受け入れている姿がうかがえ、これまでの話し合い活動での成長を感じた。保育者が問いかけや環境を通して子どもたちの思考を支え、一人ひとりの意見を大切にしている関わりも子どもたちにとっての成長に繋がっていると思われる。 今後も生活や家庭での経験と結び付けながら、お金の価値や使い方について考える探究活動を継続し、子どもたちの主体的な学びにつなげていくことを期待する。